

感動一点の場

『馬の親子』

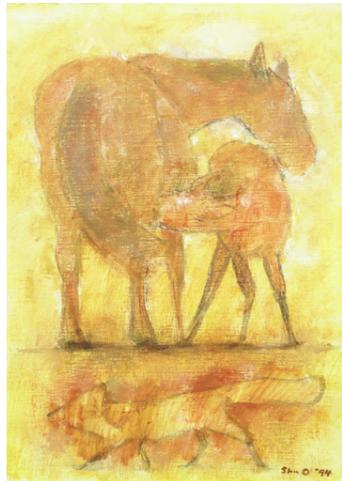
1994年 小川原 脩 画

今年の干支は「うま」。小川原脩は70年にわたる画業で馬をモチーフにした作品を多く描いた画家として知られています。北海道開拓の時代から開墾の動力だった馬は小川原の幼少期から身近にいた動物でした。小川原作品の中には荒々しい表情の馬や、馬体をねじ曲げたものなど多彩な馬が描かれていますが、今回は見ていると心が暖まる一点を紹介します。

優しい陽光を背景に馬の親子が描かれた作品です。馬の足元には1匹のキツネもいます。軽やかな筆使いで動物の輪郭を描きつつも、母馬の大きな頭と力強い足は農耕馬の特徴を捉え、キツネが歩く様子も生き生きと描かれています。親子に気付かれぬよう、そろりそろりと足音を忍ばせている様子を表現しているのでしょうか。茶色い絵の具を使って地面と馴染むように色を重ねています。

そんなキツネを気にすることもなく乳を吸う子馬の姿は愛くるしいだけでなく、北国で生きることのたくましさと生命力を感じます。馬の親子とキツネ、2つのモチーフで構成された北国の情景から、小川原の生き物を思いやる気持ちが伝わってくる作品です。

文：金澤 逸子（小川原脩記念美術館学芸スタッフ）



写真に見るちょっと昔の倶知安 - 21世紀カウントダウン in ひらふ -

2000（平成12）年から2001（平成13）年へと世紀が移り変わる大みそか、21世紀の幕開けを祝う「21世紀カウントダウンinひらふ」が開かれ、町民や観光客約7千人が新世紀の到来を共に迎えました。

会場のニセコ国際ひらふスキー場（現/ニセコ東急グラン・ヒラフ）には2,001個のアイスキャンドルがともされ、ゲレンデの照明と相まって幻想的な空間を演出しました。世紀が変わる瞬間には会場全体で秒読みが行われ、午前0時と同時に花火が夜空を彩り、250人によるたいまつ滑走でゲレンデに「2001」の文字を描きました。

町で採れたじゃがいもを使った豚汁2,001人分が振る舞われ、ダンスパーティーや大声コンテスト、スノーウエディングなどさまざまな催しが行われ、町民と観光客が共に盛り上がり、会場は一体感あふれる華やかな夜となりました。

文：紺谷 貴之（倶知安風土館 学芸補助員）



▲祝いの花火とたいまつ滑走



▲町内 YOSAKOI チームの演舞



▲約7千人が会場に集合



▲太鼓のロクさん羊蹄太鼓を熱演

ふるさと探訪

513回



▲午前0時の21世紀到来の瞬間

展覧会のお知らせ

■第1展示室

小島英一展「B. M. WOMAN」

会期：開催中～3月29日(日)

■第2展示室

小川原脩展「戦時下の画家～小川原脩の戦争を考える」

会期：開催中～1月18日(日)

小川原脩展「遙かなるイマージュ」

1988年に道立近代美術館で開催された回顧展と同じタイトルで、小川原脩の創作姿勢を表現しています。社会や自らを投影した作品、小川原の見た原風景と重なる作品群も紹介します。

会期：1月24日(土)～3月29日(日)

アート・イベントのお知らせ

■美術館で「成人の日」記念撮影をしませんか

新成人の皆さん、家族・友人と一緒に、美術館で記念撮影をしませんか。晴れ着が映える空間を、撮影用に無料開放します。

日時：1月10日(土)・11日(日)・12日(月・祝)

会場：ロビー、展示室（撮影できない作品もあります）

※「新成人です」と受付に伝えてください

■土曜サロン

工作の時間

ピカピカ光る「メダル」や絵が変わる「びっくりカード」を作ってみませんか。

日時：1月10日(土)10時～12時 会場：ロビー(予約不要・無料)

■ミュージアムコンサート

Winter White Concert

日時：1月24日(土)14時～15時

会場：ロビー（無料）※予約不要70席

出演：大川麻理さん（フルート）・大家純子さん（ピアノ）

■ロビー展示

ロビー・ギャラリー

展示者：石塚貴洋さん（星景写真家）「星のうた」

日時：開催中～1月18日(日) 会場：ロビー（無料）

会期・出品作家など詳しくは町HPをご覧ください。



倶知安風土館のお知らせ

古い地図や町並み写真を探しています

倶知安風土館では、町の移り変わりを記録し未来へ伝えるため、古い市街地図・住宅地図などの地図資料や、町並みが写っている写真の収集を行っています。自宅や職場に眠っている地図や写真がありましたらお知らせください。寄贈のほか、一時的にお借りして複写後にご返却することも可能です。



ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141
観覧料：一般 500円 [400円]
高校生 300円 [200円]
小中学生 100円 [50円]

倶知安風土館 ☎ 22-6631
観覧料：一般 200円 [100円]
高校生以下、美術館観覧者無料
※年間パスポート500円(発行日より1年有効)

開館時間は9時～17時(最終入館16時30分)
※[]内は10名以上の団体料金

1月の休館日 毎週火曜日、3日まで(年始)、
展示替えのため美術館のみ
19日(月)～23日(金)

24日(土)は展覧会初日のため美術館観覧無料、
★18日(月)までは冬休み期間のため小中学生、
高校生は美術館観覧無料

マゼンタの部屋

小川原脩記念美術館では、令和7年12月13日より小島英一氏の展覧会、小島英一展「B. M. WOMAN」が開催されています。

小島氏の作品は麓彩会にも出展されており、マゼンタ（明るく鮮やかな赤紫色で色の三原色の1つ）を基調とした色彩で描かれていて、1点の作品でもすごく情熱的な印象を受けるものでした。そんな作品たちが第1展示室に並んで展示されている様子には目を見張るものがあります。

ちなみに、マゼンタは色彩心理学で「美しさや愛情を表す色」とされることが多いようです。皆さんも小島氏の作品にかける「愛情」を感じにぜひお越しください。

また、1月18日まで小川原脩展「戦時下の画家～小川原脩の戦争を考える」を開催しています。さらに、1月24日からは小川原脩展「遙かなるイマージュ」が開催されますので、こちらもぜひご覧ください。

館長 高橋 淳之 たかはし あつし